

# JAAC だより

3月11日に発生しました『東北地方太平洋沖地震』におきまして  
被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲者の方々とご遺族の皆様に対し

深くお悔やみ申し上げます。

一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

JAAC 日米学術センター

代表 高瀬 永俊

スタッフ一同

## 特別コラム：“東日本大震災を体験して思うこと”

3月11日（金）午後2時46分ごろ、東北地方太平洋沖でマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。この地震で発生した津波により、東北太平洋地域の岩手、宮城、福島各県の海沿いに面している市町では多くの死者と行方不明者を出しました。今回の地震により、死亡または安否不明などの犠牲になられた方々は北海道、青森、岩手、山形、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、千葉、東京、神奈川の各都道府県にまで及びました。本誌の今号は特別号として、この未曾有の大地震と大津波から約一週間を経過したところで、この度の地震を経験した者の一人として思うまを本誌に記し、その想いを JAAC 生の皆さんと共有してまいりたいと思います。

1995年1月17日の早朝に起きた阪神・淡路大震災のマグニチュードは7.3でした。地震エネルギーはマグニチュードが『1』大きければ32倍、『2』大きければ1000倍違うと言われていています。今回の地震のマグニチュードは9.0ですから、地震エネルギーの規模は阪神・淡路大震災の時の1000倍に近いものでした。地震の直後から国内外のマスコミ各社はテレビやラジオ、インターネットなどを通じて被災地の様子を刻々と報じてきました。地震の後、白波を立てながら陸地を目指して進む津波。津波が陸地に到達して次々と町々を襲う様子は大きな恐れ念として深く心に刻み込まれ、決して忘れることはできません。強い余震が断続的に続くなかで、報じられる度に増える死者や安否不明者の数は無限とも思われました。時間の経過と共に明らかになる被災地の現状。映像で映し出される被災地の惨状は未だかつて見たことがないありさまで、改めて自然の猛威を痛感させられました。

被災者と安否不明者の救援、救出活動を模索しているなかで、100を超す国と地域から続々と被災地に対する救援隊派遣と救援物資提供の申し出がありました。何て心強いことでしょうか。アメリカ、ドイツ、スイスをはじめ、つい先ごろ地震で多くの犠牲者を出したニュージーランドからも救援隊派遣の申し出がありました。お隣の国の韓国や中国からも同様に申し出があり、特に中国は、『四川省大地震の際には日本の救援隊が来てくれた。今度は我々が日本に恩返しをする番だ。』とのコメントを出し、いち早く日本に駆けつけてくれました。政治と外交上の観点からすれば、中国と日本の関係は決して蜜月関係とは言えません。しかし、この日本の非常事態に際して真っ先に援助を申し出てくれたことに対して、我々は心から感謝するべきだと思います。また、こんな出来事もありました。中国からの職業訓練生が今回の震災に巻き込まれましたが、日本の受入企業の担当者が津波からの避難誘導を行い、訓練生は無事に避難しました。しかし、不幸にも避難誘導をした日本企業の担当者は安否不明になってしまいました。この出来事を中国の新聞は、『日本人は中国人の命を日本人と同等に扱ってくれた』と報じ、犠牲になった同日本企業担当者に対して感謝と哀悼の意を表しました。また、多くの国から被災地に対して義捐金が寄せられました。特にアフガニスタンのように自らの国が復興と発展の途上にある国が日本に対して義捐金を提供してくれることに対して、私は心を打たれました。日本が窮地に陥ったとき、救い

の手を差し伸べてくれる国々がこれほどまでに多くあることに、心から感謝したいと思っています。日本は今までに多く国々に様々な支援をしてきました。経済支援、技術支援、人道的支援、その他、文化や芸術の分野における親善交流を通して諸外国との友好関係を築いてきました。その日本とという国のあり方と姿勢が、世界の多くの国々と人々からの支援と暖かい応援メッセージを受けることに繋がったのではなんでしょうか。震災から約1週間が経過した現在、20を越える外国からの救援隊が日本のハイパーレスキュー隊や自衛隊、消防レスキュー隊と共に被災地での必死の救援・救助活動に従事しています。私たちはこのことを絶対に忘れてはいけません。これらの国々から応援に駆けつけて来ている人たちは危険を顧みず、自国に家族を残して来ていることを忘れてはいけません。

海外メディアの多くは被災地の現状を伝えながら、日本と日本人を絶賛するコメントと記事を発表しています。それらの見出しや記事は異口同音に、『日本人はこの非常事態のなかで辛抱強く、治安がよく守られている』というものです。確かに他の国では、このような非常事態に陥ると、略奪や暴動が起きることがしばしばあります。『非常事態にありながら、日本人の行動は規律と秩序を守り、勇敢に救援・救助活動を行っている』と報じられていることに、私は日本人としての誇りさえ感じます。しかしながら、その反面、この非常事態のなかでさえ被災地支援募金を詐欺的に集める輩や、老人宅に電話をして義捐金と称して振り込み詐欺を働く輩がいることに強い憤りを覚えます。これこそ、日本人として、いや、人間として恥ずべき行動の最たるものではないでしょうか。今こそ復興に向けて、国民が総力を挙げて臨まなければならないときに、いったい何を考えているのか！ 『恥を知れ』と声を荒げたくなる様です。

震災直後から約1週間が経ちました。この間に色々なことが起こりました。地震の影響による福島第一原子力発電所の事故もその一つです。過去にアメリカで起こった『スリーマイル島事故』やロシアのチェルノブイリで起きた原発事故が思い出されます。それらの事故とは原因と結果が異なる、とは言っても人々の不安を消すことはできません。早期の解決と安全の確保を願ってやみません。また、国際金融・経済上においても大きな影響が出ました。一時的に急激な円高が進み、過去最高値の1ドル76円台半ばまで円高が進み、株価も下がりました。一時は日本の影響により世界恐慌まで進むのかと心配されました。世界銀行が試算したところによると、今回の震災による経済的な影響は19兆円に上ると言われています。日本が震災で被災していても、世界経済はその自らの進みを止めることはできません。むしろ、この状況を一喜一憂しながらもビジネスチャンスに変えようとする経済活動が行われています。これも我々が直面する現実の世界の一部なのですね。世界の中の一つの国が危機に直面していても、世界的規模の様々な活動は立ち止って待ってはいけません。今回のことで改めて思い知らされたことの一つでした。

震災直後は誰もが行き場のない怒り、悲しみ、絶望、そして、希望などありとあらゆる想いを心に抱いてきました。これからは復興に向けて少しずつ歩み出して行く時です。世界中の様々な団体、アーティスト、スポーツ選手の方々から心暖かい応援メッセージや義捐金を送っていただいています。日本国内においても、公的な機関が被災地への募金活動を始め、多くの一般の人々からの募金が集まっています。大学生たちもボランティア活動が受け入れられるのを待っています。被災地から離れたところに暮らす人々は、今日も募金をするために募金所で列を作っています。被災を免れた関東の各県は被災者の集団受入を始めました。青森の漁港では漁の再開も始まりました。被災者として避難場所にいる人たちの中からもボランティア活動が始まっています。被災した人も、被災を免れた人も、復興に向けて一人ひとりが自分たちでできることを考えながら動き始めています。日が経つにつれて、犠牲者の数が増えてきています。しかし、新たな人命が一つ、そして、また一つ救われたという嬉しいニュースも伝えられてきています。復興への歩みを始めた我々にとっては、とても勇気付けられるものです。今回の被災の規模からみて、復興にはかなりの時間を要するでしょう。JAAC生の皆さんはこの復興を担う世代です。どうか今の日本の姿と被災地の現状をよく見て、心に刻んでおいてください。そして、皆さんが復興のために何ができるのか、何をすべきかを是非考えてください。 (カリフォルニア事務局： 照井)

Let me remind you...

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

◆就職活動をするJAAC生の皆さんへ： アメリカ国内や日本で開催されるジョブ・フェアやキャリアフォーラムの予定は4月に発表される予定です。インターネット等を通して、就職説明会などの情報を入手するよう努めてください。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)

